

【レポート】

第41回地方自治研究全国集会
(ふくい自治研)

コロナ禍以降、全国の福祉現場で「関係性の貧困」が加速し、生活課題が複合化している。尾道市ではこうした状況に対し「つながる」を合い言葉に、福祉まるごと相談や地域共生包括化推進会議を軸として、支援者支援・多機関連携・個別ケース会議を進めてきた。これまでの実績を事例とともに説明し、今後の取り組みについて提言します。

「つながる」

広島県本部／尾道市職員労働組合 宮野 卓

尾道style



な

が

っ

る

COCORONOMICHI

こころ（お）のみち
尾道市・尾道市社会福祉協議会

尾道市職員労働組合
宮野 卓

「関係性の貧困」が新型コロナ禍で加速

子育て

障害

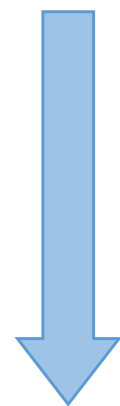
困窮

高齢

自殺
対策

各分野それぞれ取り組みを進めてきました

新型コロナウイルス
感染症拡大



経済活動
停滞

雇用悪化
収入減少

DV・虐待
増加

外出自粛

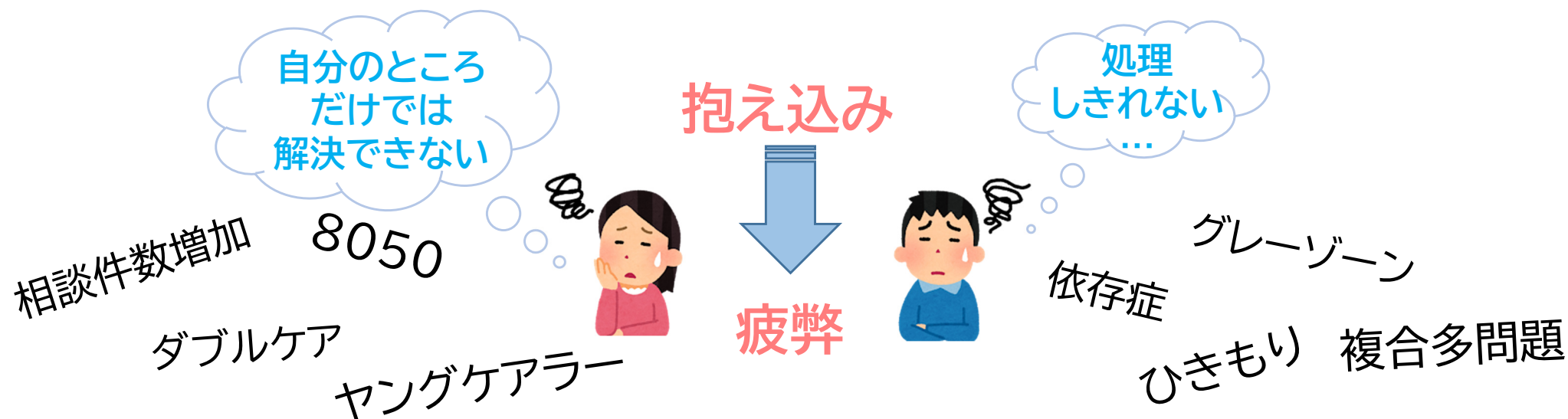


○生計維持が不安定な世帯の抱える
「関係性の貧困」

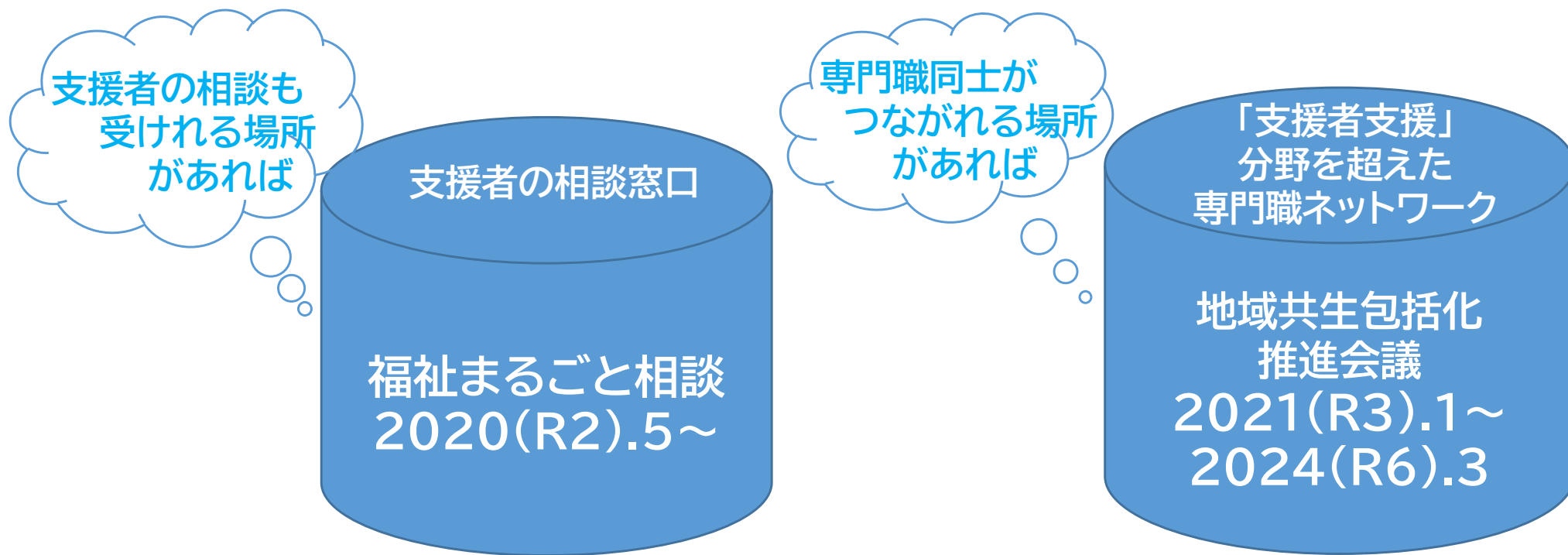
○複合的な課題に対する支援者間の
「関係性の貧困」

○ひきこもりなど相談窓口が
不明確な課題の表面化

複合多問題で支援者が疲弊



支援者が疲弊していたら相談者への支援は困難 ⇒ 支援者への支援が必要！



相談者が「つながる」福祉まると相談

○世帯の抱える「関係（性）の貧困」を把握します

○ワンストップで受け止め、「つながり」を作ります

延相談件数（2020～2024） 2020：91件 2021：265件 2022：314件 2023：538件 2024：702件

内 容	2020	2021	2022	2023	2024	事 例
ひきこもり 8050問題	20	50	72	99	73	母親・子の2人世帯。母は認知症で要介護1、子は長期ひきこもり（無就労）父が存命中は、両親の年金で生計を維持してきたが父の死亡により生計維持が困難となり困窮に至った。
介護困窮 ダブルケア	13	25	19	54	234	父・母の2人世帯。子は父の透析治療の送迎、介護を行っており、自身も呼吸器・循環器の疾患を抱え、今後はペースメーカー装着の見込みであり、無就労。 将来への不安で不眠となり、精神通院を検討している。
病気治療・困窮	19	56	43	53	72	高齢単身世帯。年金は月額10万円程度。65歳まではシルバー人材センターで就労していたが現在は無就労。ギャンブル依存で多重債務者。悪性新生物により医療費が増加し、生計維持困難となる。
障害（の疑い） による困窮	18	81	110	160	198	聴覚障害を持つ母と子2人のひとり親世帯。離婚後、養育費について弁護士に相談中。転居を迫られているが、転居費用の捻出や転居先の物件探しが困難
その他	21	53	70	172	125	夫婦と子の3人世帯。多額の債務を抱え、困窮。弁護士に相談するも着手金の支払いが困難で中断。父・子が就労するも母の家計管理や家事能力が乏しく、自宅もゴミ屋敷となっている。

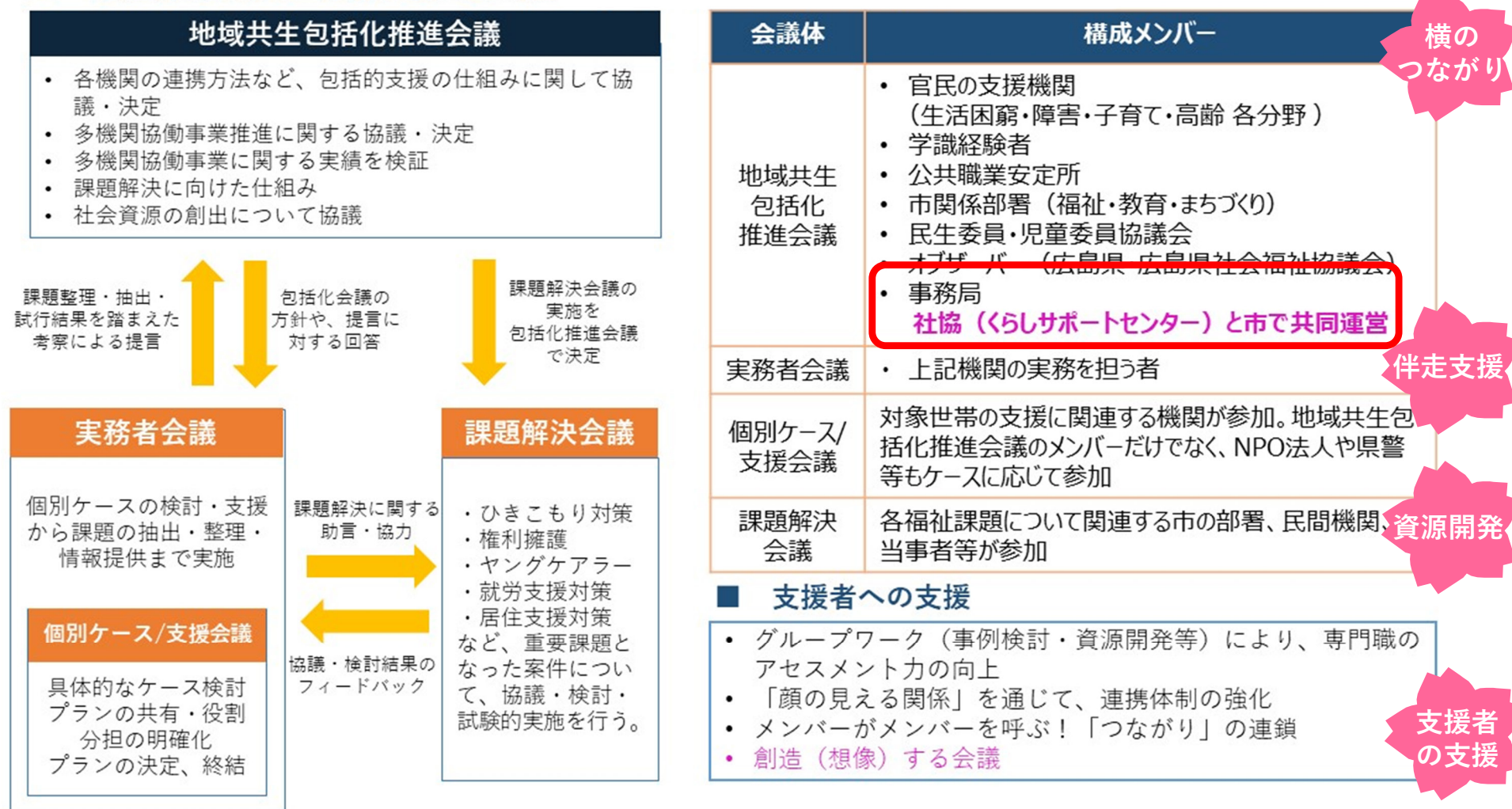
分野を超えた「つながり」尾道市地域共生包括化推進会議

○支援者と相談者双方の「関係（性）の貧困」を解消します！

○支援者の声をボトムアップし、創造します！

尾道オリジナル

■ 尾道市地域共生包括化推進会議（2020（R2）年度～2023（R5）年度）



移行準備事業の課題（R2～R5）

- ・ 複合多問題の課題を抱えた世帯の相談の多くは、**経済的困窮課題**を抱えている傾向にある。
- ・ **社会的孤立**の顕在化
- ・ **障害者手帳を持たない“疑い”がある方**の相談が多く、サービスなどにつながる事が困難。
- ・ 生活を送る拠点となる「**住まいの不安定**」の課題に対する解決方策の検討が急務。

⇒相談先が明確になっていない課題や多分野にまたがる課題について、専門協議が必要。

2021(R3)~2023(R5)年度まると相談窓口課題別集計

相談者が抱える課題（R3年度新規）				課題合計 178件/44人（2～8件/1人）						
病気	けが	障害（手帳有）	障害（疑い）	自殺企図	その他メンタルヘルス	住まい不安定	ホームレス	経済的困窮	債務	
14	1	10	10	2	3	6	2	31	8	
家計管理の問題	就職活動困難	就職定着困難	生活習慣の乱れ	社会的孤立	家族の問題	介護	子育て	不登校	非行	
11	16	6	0	5	11	4	6	6	1	
中卒・高校中退	ひとり親	DV・虐待	外国籍	刑余者	コミュニケーションが苦手	本人の能力の課題	被災	その他		
0	11	3	0	0	5	3	0	3		

相談者が抱える課題（R4年度新規）				課題合計153/43人（1～7件/1人）						
病気	けが	障害（手帳有）	障害（疑い）	自殺企図	その他メンタルヘルス	住まい不安定	ホームレス	経済的困窮	債務	
9	1	3	22	1	1	4	0	21	10	
家計管理の問題	就職活動困難	就職定着困難	生活習慣の乱れ	社会的孤立	家族の問題	介護	子育て	不登校	非行	
21	9	2	2	12	8	3	0	1	0	
中卒・高校中退	ひとり親	DV・虐待	外国籍	刑余者	コミュニケーションが苦手	本人の能力の課題	被災	その他		
1	3	2	1	1	4	6	0	5		

相談者が抱える課題（R5年度新規）				課題合計180/44人（3～11件/1人）						
病気	けが	障害（手帳有）	障害（疑い）	自殺企図	その他メンタルヘルス	住まい不安定	ホームレス	経済的困窮	債務	
15	5	1	10	1	8	7	0	37	12	
家計管理の問題	就職活動困難	就職定着困難	生活習慣の乱れ	社会的孤立	家族の問題	介護	子育て	不登校	非行	
10	18	5	2	11	11	1	2	1	1	
中卒・高校中退	ひとり親	DV・虐待	外国籍	刑余者	コミュニケーションが苦手	本人の能力の課題	被災	その他		
0	5	4	1	0	4	4	0	4		

地域共生包括化推進会議の実績①

○本会議・実務者会議の実績（2020(R2)～2023(R5)）

本会議	全 8 回開催
実務者会議	全 16 回開催

＜会議実績＞

- ・ つながる尾道個別ケース会議Bookの作成
- ・ 課題解決会議「ひきこもり／権利擁護」の立上げ
- ・ 地域共生推進セミナーの開催
- ・ 各関係機関ヒアリング実施による分野横断課題の整理
- ・ 模擬ケース検討など、支援機関のアセスメント力向上
- ・ 尾道市重層的支援体制整備事業実施計画の策定



地域共生包括化推進会議の実績②

○個別ケース会議の実績

複雑多問題を抱えるケース、制度やサービスの隙間の課題を抱えるケースの多機関協議。

【実績数】

2021(令和3)年度 8件 / 2022(令和4)年度 6件 / 2023(令和5)年度 7件

【参加機関】

市（社会福祉課、健康推進課、高齢福祉課、子育て支援課、因島福祉課、教育委員会）、はなはな、地域包括支援センター、くらしサポートセンター、東部保健所、パレアモア、東部こども家庭センター、スクールソーシャルワーカー、警察、民生委員、区長、弁護士、司法書士、みらサポ、他市社会福祉協議会、市社会福祉協議会

 個別ケース会議をもっと活用しやすい形へ⇒重層的支援会議の在り方検討

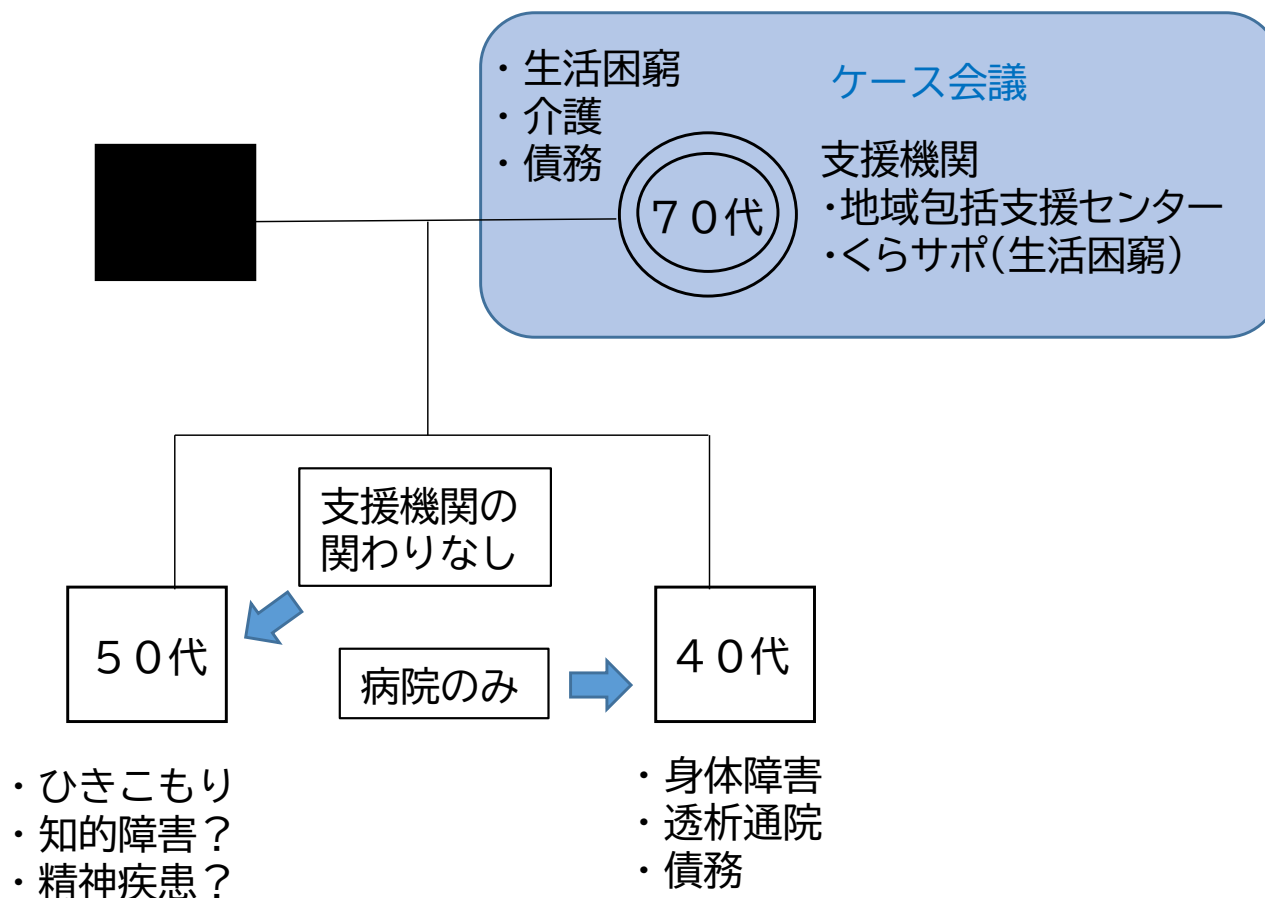
事例：通常のケース会議

世帯：母 70代
長男 50代
次男 40代

課題：
母 遺族年金10万円/月
要支援1
多額の債務

長男 30年近くひきこもり
知的障害の疑い
精神疾患の疑い

次男 身体障害あり
週3回透析通院
年金担保の債務
障害年金10万/月



事例：個別ケース会議

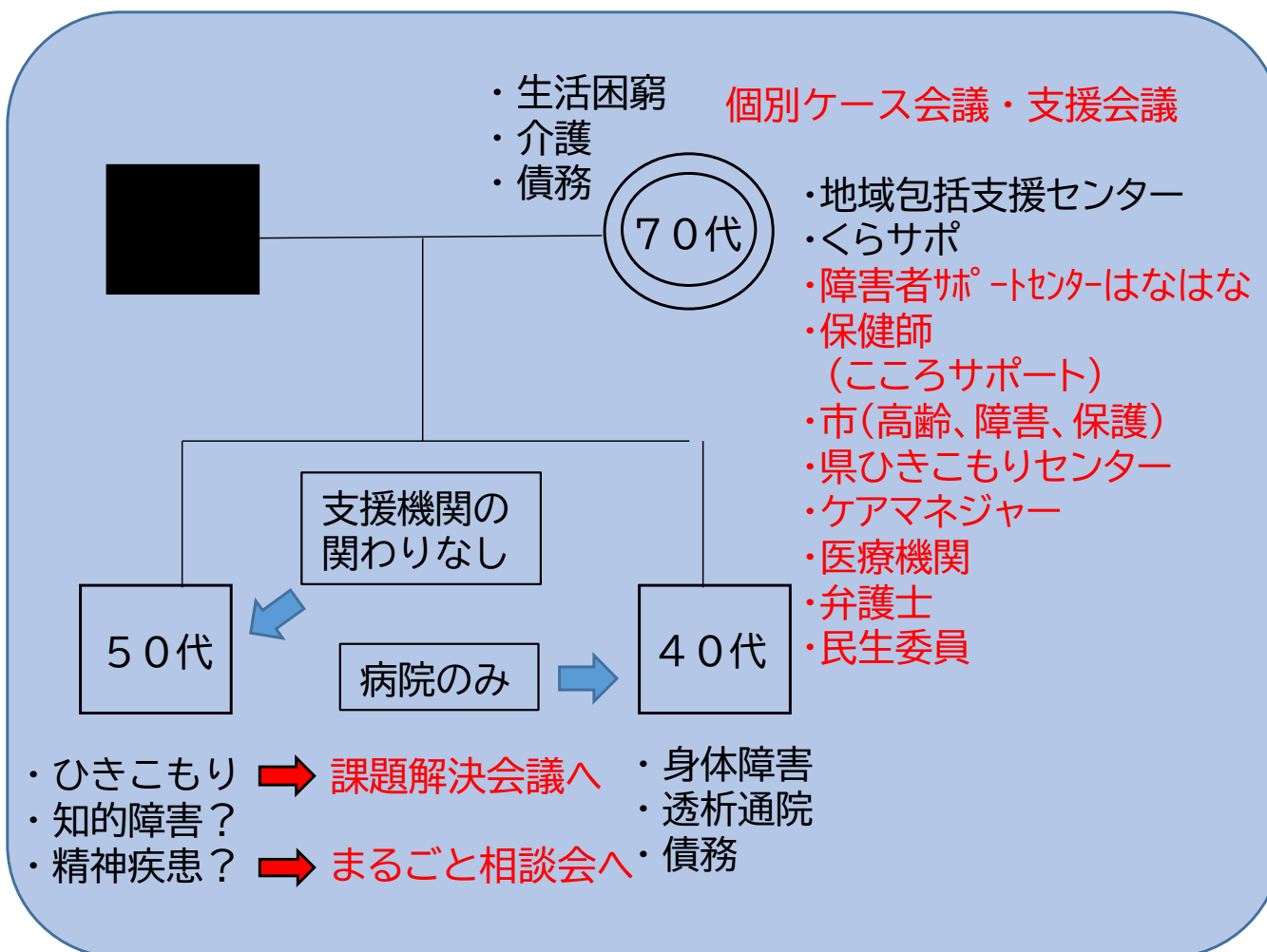
世帯全体をケースと捉え、事務局が会議をコーディネート

世帯：母 70代
長男 50代
次男 40代

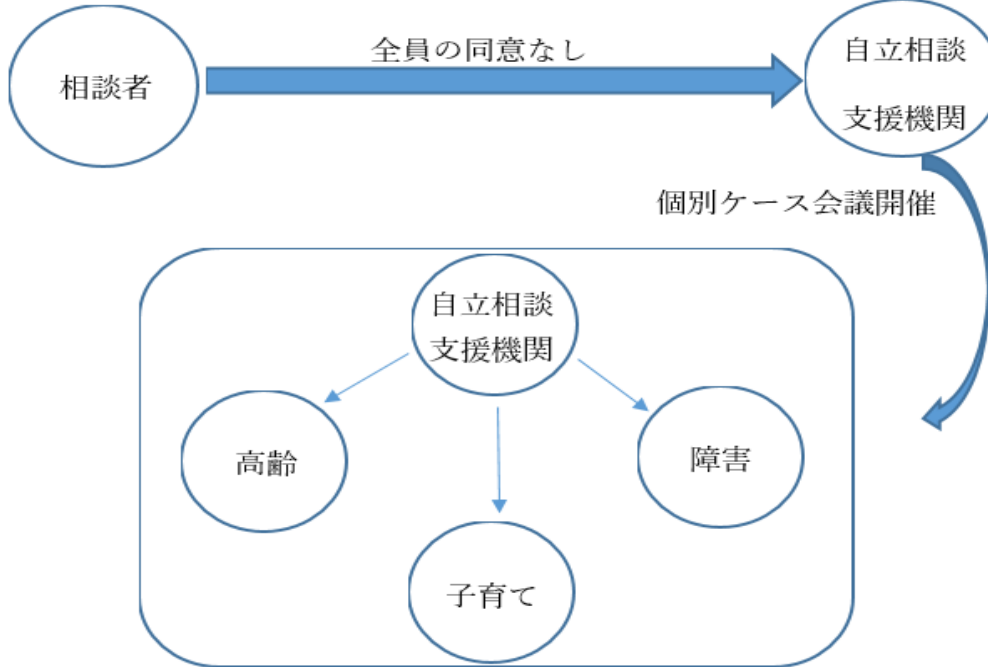
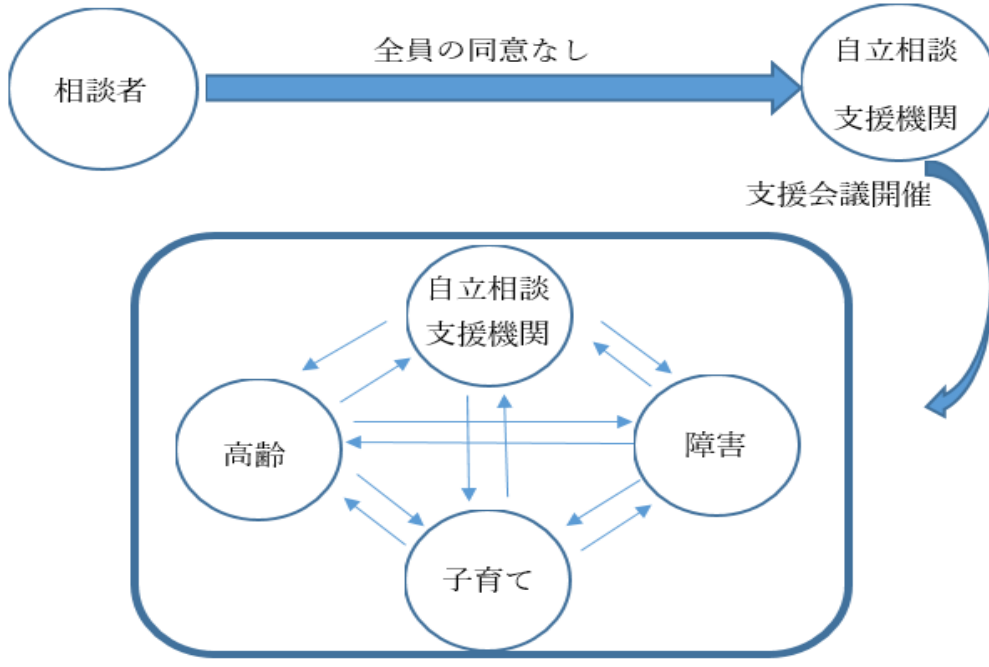
課題：
母 遺族年金10万円/月
要支援1
多額の債務

長男 30年近くひきこもり
知的障害の疑い
精神疾患の疑い

次男 身体障害あり
週3回透析通院
年金担保の債務
障害年金10万/月



個人情報の取り扱い「個別ケース会議」と「支援会議」

個別ケース会議			支援会議		
根拠法：社会福祉法 106 条の 4 第 2 項第 6 号			根拠法：生活困窮者自立支援法第 9 条		
 相談者 全員の同意なし 自立相談支援機関 個別ケース会議開催 高齢 障害 子育て 会議構成員に守秘義務がないから 同意のない情報は共有できない			 相談者 全員の同意なし 自立相談支援機関 支援会議開催 高齢 障害 子育て 会議構成員に守秘義務があるから 同意のない情報も共有できる		
ひきこもり世帯	母（同意あり）	子（同意なし）	ひきこもり世帯	母（同意あり）	子（同意なし）
情報共有	○	×	情報共有	○	○

地域共生包括化推進会議の実績③

○課題解決会議

2021 (R3) . 3～2023 (R5) . 10 「ひきこもり」をテーマとした会議。

(全10回開催)

ひきこもりについて関係する市関係課、関係機関、団体、当事者が参加。

○共通の支援課題として再認識、支援のあり方について検討。

ひきこもりに関する考え方や支援の方法など、尾道市における一定の方向性を整理

■尾道市におけるひきこもりの定義（考え方）

■ひきこもり支援のフローの検討

■ひきこもりサポーター、みらいサポーター（傾聴支援員）の養成カリキュラム作成

■尾道市版）ひきこもりサポーター支援ハンドブックの作成

今後は「みらいネット会議（ひきこもり支援ネットワーク）」として開催。



➡ 次の課題（テーマ）は「権利擁護」 2024 (R6) . 3～2025 (R7) . 8権利擁護部会

ひきこもり支援

■ 支援体制整備実績 (2021 (R3) 年度～2023 (R5) 年度)

- ひきこもり支援の専門部会「みらいネット会議」
- ひきこもり支援ステーション「みらサポ」開設
- ひきこもりサポーター養成 77人登録 **尾道オリジナル**
- サポーター用支援マニュアル・パンフレット作製
- みらいサポーター養成 22人登録

■ 広報・啓発実績 (2022 (R4) 年度～2023 (R5) 年度)

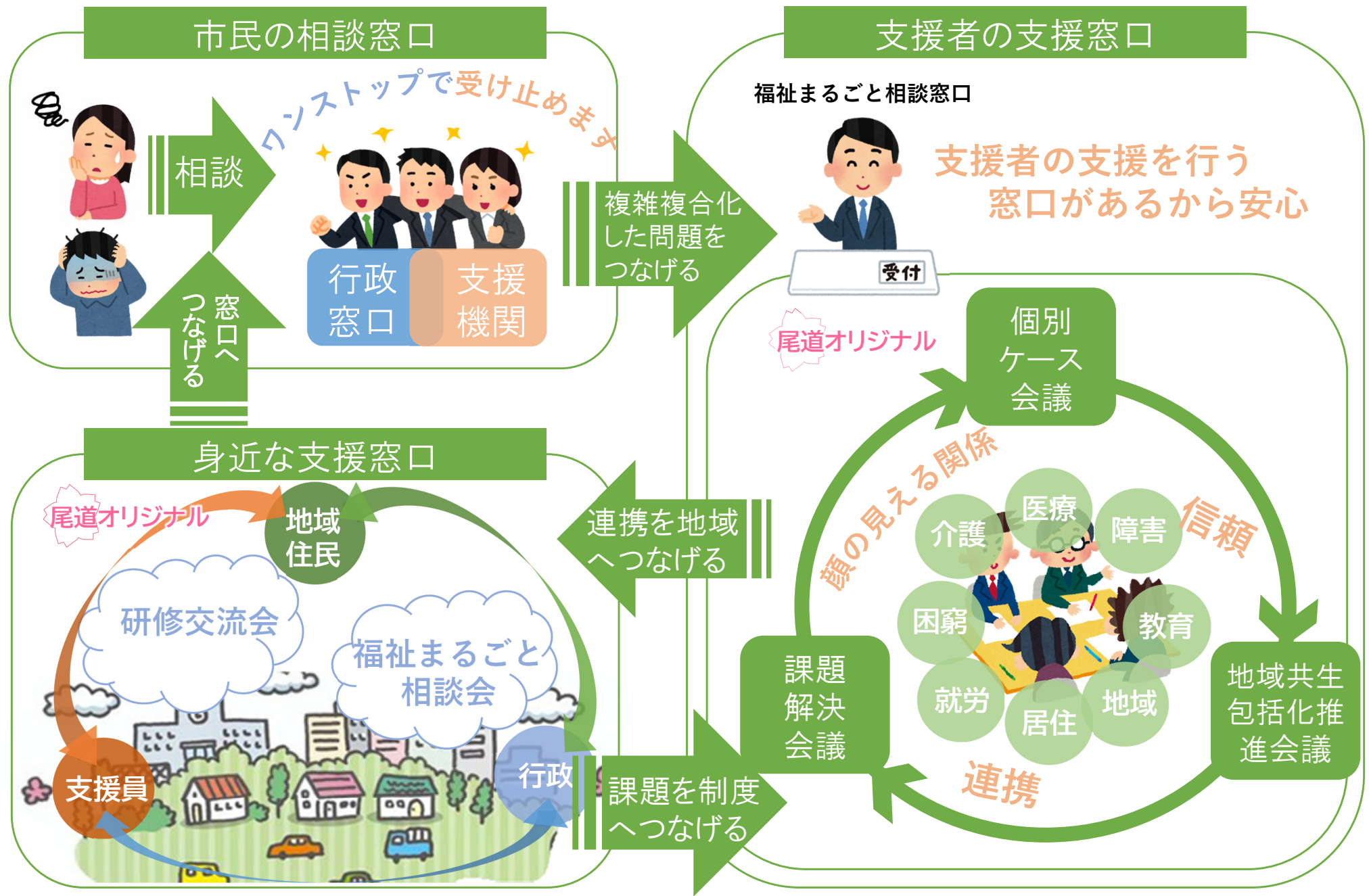
- 2022 (R4) 年9月11日 「設置記念フォーラム」
(会場160人、オンデマンド80人)
- 2022 (R4) 年10月18日 「民生委員研修会」 (50人)
- 2023 (R5) 年8月 ひきこもりサポーター
シンボルマーク作成

■ 「みらサポ」相談実績 (令和4年度～令和6年度)

	2022	2023	2024	備考
来所相談	80	230	187	・フォーラム等により認知度が向上、相談件数が増加 ・来所相談が最も多く、訪問、電話が続く ・年齢層は19歳～29歳が最も高く、30歳～39歳と40歳～49歳が続く ※若者層含め、社会保障や福祉制度の狭間の年齢層 ・不登校からのひきこもりの相談事例が増加。市教委も会議に参加し連携 ・内閣府の調査を基に、市内の対象者は1,380人と推計している。
電話相談	117	120	180	
メール相談	7	54	111	
訪問相談	97	144	166	
その他	29	39	92	
合計	330	587	736	



尾道市の三つの理念 「つながりのループ」

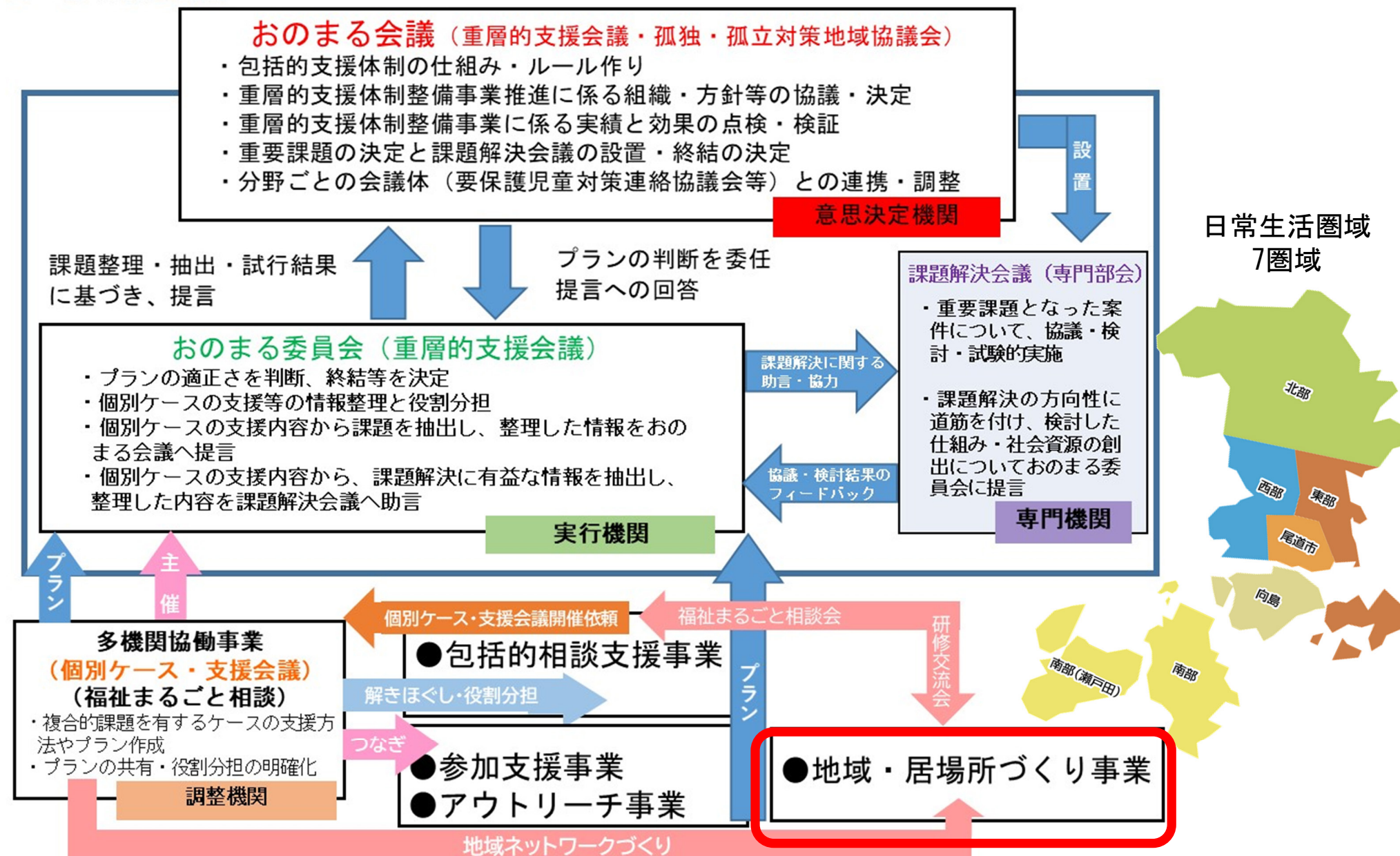


できたこと	これから取組むこと
○ 相談窓口の明確化・ワンストップ化 ○ 伴走支援の仕組み ○ 課題抽出・資源開発の進め方の確立 ○ 支援体制の構築	○ 地域づくり（「場」の創出） ○ 福祉以外の分野とのつながり ○ 地域生活課題の隙間を埋める ○ 権利擁護などの新たな取り組み



～支援者と地域がつながる場所～ 「おのまる会議」

■ おのまる会議（2024（R6）年度～）





福祉まるごと相談会



研修交流会



福祉まるごと相談会	開催日 (午後)	場所	内容	準備チーム メンバー	参加者数
中央	11月27日	市役所2階 多目的室	1. 勉強会 認知症 講師：市民病院認知症認定看護師 2. 支援機関紹介 ⇒ 職員自己紹介・機関事業内容 3. 交流会	市社協、地域包括支援センター、はなはな、ぽかぽか、市子育て支援課、市健康推進課、民生委員（1・2・9区）、事務局	55
瀬戸田	1月15日	瀬戸田市民会館 多目的ホール	1. 勉強会「地域のつながり活動」 （実践報告）について 尾道市向島町岩子島 めだかの学校 三原市小泉町 小泉わいわいサロン 2. 支援機関紹介 3. 交流会	市社協、地域包括支援センター、はなはな、民生委員（18区）、地区社協、健康推進課、市瀬戸田支所、市因島福祉課（福祉係・生活保護係）、事務局	75
西部	2月17日	福祉センター 大会議室	1. 各支援機関の事業紹介と事例発表 2. 交流会	市社協、西部地域包括支援センター、はなはな、ぽかぽか、市子育て支援課、市健康推進課、民生委員（3・4・9・10区）、事務局	75
研修交流会	開催日 (午後)	場所	内容	準備チーム メンバー	参加者数
北部	12月11日	みつぎいこい 会館 多目的ホール	1. 趣旨説明 2. 自己紹介（アイスブレイク）⇒自己紹介カードの交換。 3. 重層的支援整備事業について（20分）※研修交流会の目的含み 4. 交流会 グループの変更等はなし	市社協御調支所、御調保健福祉センター、北部地域包括支援センター、はなはな、ぽかぽか、市健康推進課、市子育て支援課、民生委員（5・10・11区）、事務局	53
向島	1月31日	市民センター むかいしま	1. 趣旨説明 2. 研修会 おのまる会議（重層的支援体制整備事業）について 3. 交流会（30分×2回） メンバーを変え2回行う。 ※副市長参加	市社協向島支所、向島地域包括支援センター、はなはな、市子育て支援課、市教育委員会、市健康推進課、市向島支所島おこし課福祉保険係、民生委員（8・12区）、事務局	41

福祉まるごと相談会・研修交流会

目的： 地域住民と支援機関や行政との
多分野の支援者(事業所)同士の] 顔の見える関係の構築

内容：地域ごとの準備チームで協議して企画。

例)勉強会：準備チームで地域にあったテーマを決定

(地域のつながり活動、**精神疾患**、認知症、支援機関の活動について)

座談会：他分野の参加者が**“ごちゃまぜ”**のグループ構成

ポイント!⇒三つの“ない”で座談会を実施

- ①テーマは決めない。
- ②机は使わない(えんたくん使用)
- ③発表はしない



準備チーム構成

- ・民生委員
- ・地区社協
- ・市社協(支所)
- ・地域包括支援センター
- ・障害者支援センター
- ・市子育て支援課
- ・市健康推進課
- ・その他(支所など)
- ・おのまる会議事務局

参加者から大小問わず様々な地域生活課題の話が出てくる

➡ 雑談だからこそ丁寧なアセスメントと解決のヒントが見えてくる

尾道styleの未来「いろんな背景がある人」の「快適なつながり」

